

つなぐれ和泉っ子

令和4年9月29日

～人と社会と未来の自分～

和泉

10月号


<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/izu>

人と自然の造形美

校長 中澤 道則

アブラゼミの音がヒグラシに、そして草叢から聞こえる鈴虫の音にと、季節は移ろい、吹く風にも「秋」が感じられる季節になりました。そんな中で、9月22日～23日にかけて6年生と日光修学旅行に行っていました。日光は横浜よりも更にしのぎやすく、夜には厚手の布団が必要なほどでした。

さて、コロナ以来、久しぶりの修学旅行。私にとっては31回目の修学旅行です。1日目は華厳の滝から戦場ヶ原、湯滝。雨に降られることもなく、無事に宿舎へ。2日目は最初のうちこそ雨模様でしたが輪王寺から東照宮と、日光の自然と文化遺産を満喫することができました。宿舎では学年レクや、駆除された鹿の角を使ってのストラップづくり等を通して友達同士の親交を深めることができていました。感染症拡大防止対策をしながらも、小学校生活最初で最後の宿泊体験学習を「節度ある態度」で楽しむことができていた6年生の姿は、素晴らしかったです。1泊2日、寝食を共にして和泉っ子の素敵なところをまた一つ、見つけることができました。



それにしても日光は何度行っても素晴らしいです。自然が生み出した造形美と、人間が生み出した造形美が相まって、日光自体が一つの芸術作品のようです。1泊2日でそのすべてを味わい尽くすことは、とてもできません。その美しさはまさしく「世界遺産」にふさわしいと言えるでしょう。私たちにはこの大切な自然と文化を守り、受け継いでいく責務があるのだと、改めて考えた日光修学旅行でした。

週が開ければ10月。今年も残り100日を切りました。学校における1年間の折り返し地点です。7日には前期終業式で、子ども達に「あゆみ」を渡します。「あゆみ」には子ども達のこの半年の頑張りが詰まっています。

「良いところ」は「もっと良くするところ」として、そして「今一つ」だったところは「これから良くするところ」としてしっかり受け止め、後期の学びに活かして行ってほしいと思います。この修学旅行をはじめとして、学校にも少しずつ「日常」が戻ってきています。引き続き感染症拡大防止対策をしっかりと行いつつ、10月も子ども達が安全に、安心して学校生活を送ることができるよう、教職員一同、努めてまいります。保護者・地域の皆様におかれましては引き続きご理解、ご協力賜りますよう、何卒宜しくお願いいたします。